


防犯診断の手引き 一戸建住宅編

2023年12月

 公益社団法人 日本防犯設備協会
施工基準委員会

まえがき

「闇バイト強盗」と称される強盗等事件が、昨年から今年にかけて、広域で連続して発生しております。住民や店員が所在していても犯行を厭わない、被害者を拘束した上で暴行を加えるなど、凶悪な犯行態様であることの特徴がみられます。また、今年は、侵入犯罪の増加が目立っております。前年同期比で約 30% 近く増えています。

住民にとりましては、一番平穏な生活の場である住宅に対する侵入が、不安感を与える最大のものであります。「もしかしたら自分が被害に遭うかもしれない」という不安感が広がっています。

政府は、2023（令和 5）年 3 月 17 日犯罪対策閣僚会議において、「SNS で実行犯を募集する手口による強盗や特殊詐欺事案に関する緊急対策プラン」をまとめました。

この中で「被害に遭わない環境を構築する」ための対策として、「防犯性能の高い建物部品、防犯カメラ、宅配ボックス等の設置に係る支援」の項目があります。CP 部品の普及や侵入犯罪対策の広報・啓発を推進するほか、ドアや窓を CP 部品のものに交換する、防犯カメラや宅配ボックスの設置等を支援することなどにより、防犯性の高い住宅への改修を促進することとされています。

全国の地域協会では、防犯に配慮した構造や設備を有するマンションや戸建て住宅などを防犯優良住宅として登録や認定をする制度を制定、運用しています。その審査には、防犯設備士、総合防犯設備士があたっています。その際には、対象となる施設や建物の脆弱性を確認し、防犯対策をとる必要があるかどうかを検討する、防犯診断の手法を使っています。防犯診断は、（総合）防犯設備士の主たる業務の一つでもあります。

本「防犯診断の手引き」は、（総合）防犯設備士が対象施設、物件、周囲の環境等の防犯診断をする際の防犯診断基準、着眼点、チェックポイントなどを分かりやすくまとめたものです。防犯診断基準は、各地域協会が制定、運用している防犯優良住宅認定制度の審査基準を参考にしています。防犯のプロである（総合）防犯設備士の皆さんにとっては当たり前の内容かもしれませんが、もう一度再確認の意味も込めて制作いたしました。ご活用 of のほどお願い申し上げます。

2023 年 10 月

施工基準委員会
委員長 谷川威人

防犯診断の手引き（一戸建住宅編）

1. 一戸建住宅の防犯診断する場所	1
2. ドア（出入口扉）	2
2.1 基準	2
2.2 犯罪状況	2
2.3 扉の侵入手口	4
（1）扉の侵入手口の分類	4
（2）ドア自体を攻撃するもの	5
（3）その他	7
（ア）無施錠	7
（イ）採光部の攻撃	8
（ウ）ドアスコープの攻撃	9
2.4 玄関の対策	11
（1）ドアとドアの隙間を攻撃するもの	11
（2）周辺を含めた玄関の防犯対	11
（3）防犯性能の高い建物部品（CP部品）とは	12
2.5 チェックポイント（出入口扉）	13
（1）玄関	13
（2）その他の出入り口（勝手口等）	14
3. 錠前（出入口扉）	16
3.1 防犯診断基準と解説	16
3.2 手口（錠前を攻撃するもの）	16
（1）ピッキング	16
（2）インプレッション	16
（3）カム送り（バイパス解錠）	16
（4）読み取り	17
（5）サムターン回し	17
（6）鍵穴壊し	17
（7）シリンダー打抜き・引抜き（シリンダーもぎ取り）	18
（8）焼切り	18
3.3 錠に関連するチェックポイント	18
4. 窓	19
4.1 防犯診断基準	19
4.2 侵入状況の割合	19
4.3 対策	19
4.4 用語の説明	19
（1）侵入の恐れのある窓とは	19
（2）侵入防止に有効な措置	19
（3）防犯サッシ	19
（4）防犯合わせガラス	19
（5）防犯フィルム	20

(6) 防犯面格子	20
4.5 窓のチェックポイント	20
5. バルコニー	20
5.1 防犯診断基準	20
5.2 バルコニーの内部の侵入を防止する方法（対策）	20
(1) 樋からの伝い渡し	20
(2) 手摺等を利用して侵入	21
(3) バルコニー内の見通しの確保	22
5.3 バルコニーのチェックポイント	23
6 門扉	24
6.1 防犯診断基準	24
6.2 留意事項	24
6.3 用語の説明と対策	24
(1) 乗り越えが容易にできない高さとは	24
(2) 門扉の施錠	24
(3) 外部からの鍵なしで解錠できない門扉とは	25
(4) 門扉内外の見通し	25
(5) 門扉内外の照度	26
(6) 郵便ポスト・新聞受けやインターホンをまとめて設置	26
6.4 門扉のチェックポイント	26
7 囲障・生垣	28
7.1 防犯診断基準	28
7.2 用語の説明と対策	28
(1) 囲障とは	28
(2) 乗り越えが容易にできない材質・構造・高さ	28
(3) 出入口や窓に近づけないよう有効に設置	29
(4) 道路や路地からの視線を遮らないよう設置	29
(5) 駐車場を附属する場合	29
(6) 植栽などは周囲からの見通しを妨げるような樹種の選定や植栽の位置の配慮	30
7.3 囲障・生垣（設置する場合の留意事項）チェックポイント	30
8 防犯カメラ	32
8.1 防犯カメラの設置メリット	32
(1) 犯罪の抑止効果と証拠能力	32
(2) 防犯に対する防犯カメラを設置に適した場所	32
8.2 防犯カメラの設置の際の留意事項	33
(1) 用途、設置場所の環境を考慮して選択	33
(2) 死角を増やさないよう、設置場所や角度を認識	33
(3) 屋外用はその場所の明るさに合わせた機能を選択	34
(4) 防犯カメラ設置のステッカーやシールを貼る	34
(5) 撮影した映像、得た情報の取扱いに十分注意する	34
8.3 防犯カメラのチェックポイント	35
9. テレビドアホン	38
9.1 テレビドアホンの普及について	38

9.2 テレビドアホンの抑止力としての重要性 -----	38
(1) 防犯機器としての重要性 -----	38
(2) インターホンを鳴らして留守を確認し、空巣に入る犯罪者もいる-----	38
9.3 テレビドアホンの選択ポイント -----	39
(1) 非常ボタン -----	39
(2) 広角カメラ -----	39
(3) 自動動画 -----	39
(4) LEDライト -----	39
9.4 テレビドアホンがない場合の対処法 -----	40
(1) 基本的にすぐドアを開けない -----	40
(2) 賃貸にテレビアホンを取り付けられるか。-----	40
(3) スマートフォンとの連携 -----	40
9.5 テレビドアホンのチェックポイント-----	40

1. 一戸建住宅の防犯診断をするカ所

一戸建住宅の防犯対策して注意する場所は、下記の赤丸が記載されている所を中心に防犯診断をする必要があります。詳細については、次の頁から記載します。



図 1.1 一戸建住宅の防犯診断を実施する場所

2 ドア（出入口扉）

2. 1 防犯診断基準

- （1）防犯性能の高い建物部品に登録された扉であること、又はこじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられていること。
- （2）錠は、防犯建物部品等の錠であること。また、補助錠が設置されていること。
- （3） ドアスコープ、ドアチェーン等が設置されていること。

2. 2 犯罪状況

- （1）扉出入口を侵入経路とする侵入盗は、無施錠が 51.2% も占めており特に地方に行けば行くほど無施錠率がアップする傾向にあります。

玄関扉や勝手口扉の侵入手口には主に以下の分類があります。これらのほとんどは、特定の部位を攻撃するものであるので、その部位を強化することが、侵入の防止に大きく貢献します。

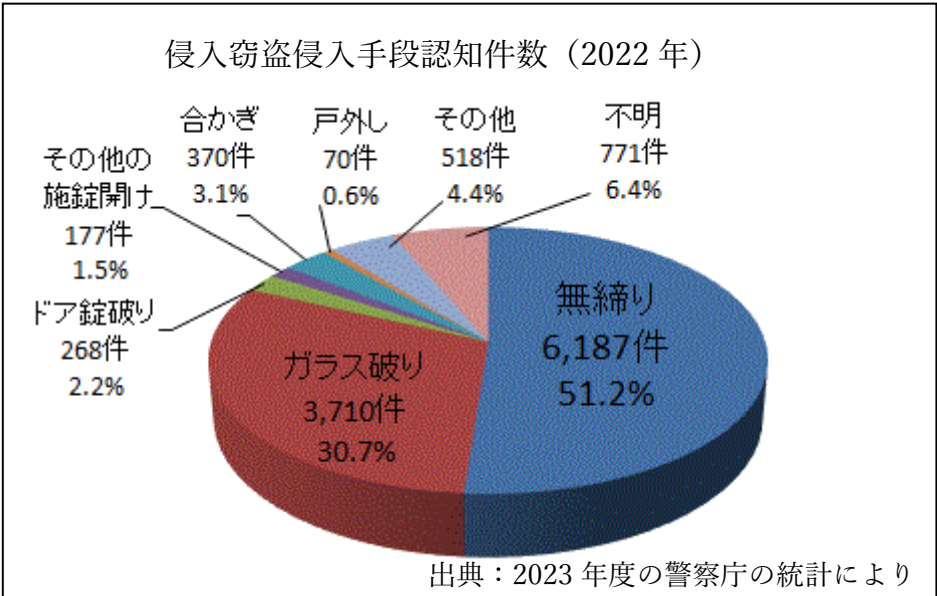


表 2.1 侵入窃盗の侵入手段別認知件数（件数：12,071 件）

【参考】

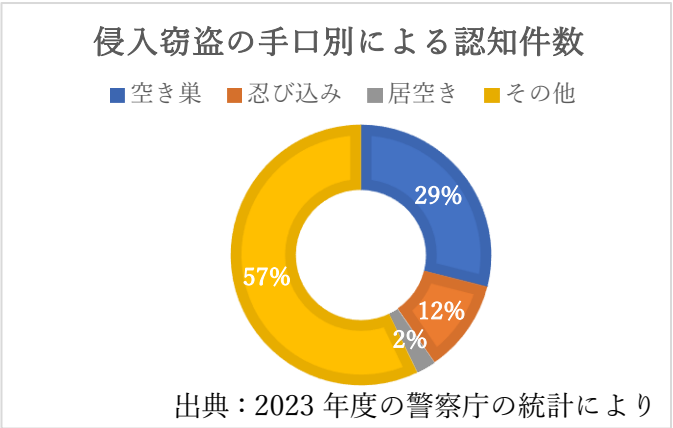


表 2.2 侵入窃盗の手口別の認知件数

2.3 扉の侵入手口

扉での侵入手口は、下記の図の様に分類されています。錠前については、次の3の項目で説明します。

(1) ドアとドアの隙間を攻撃するも

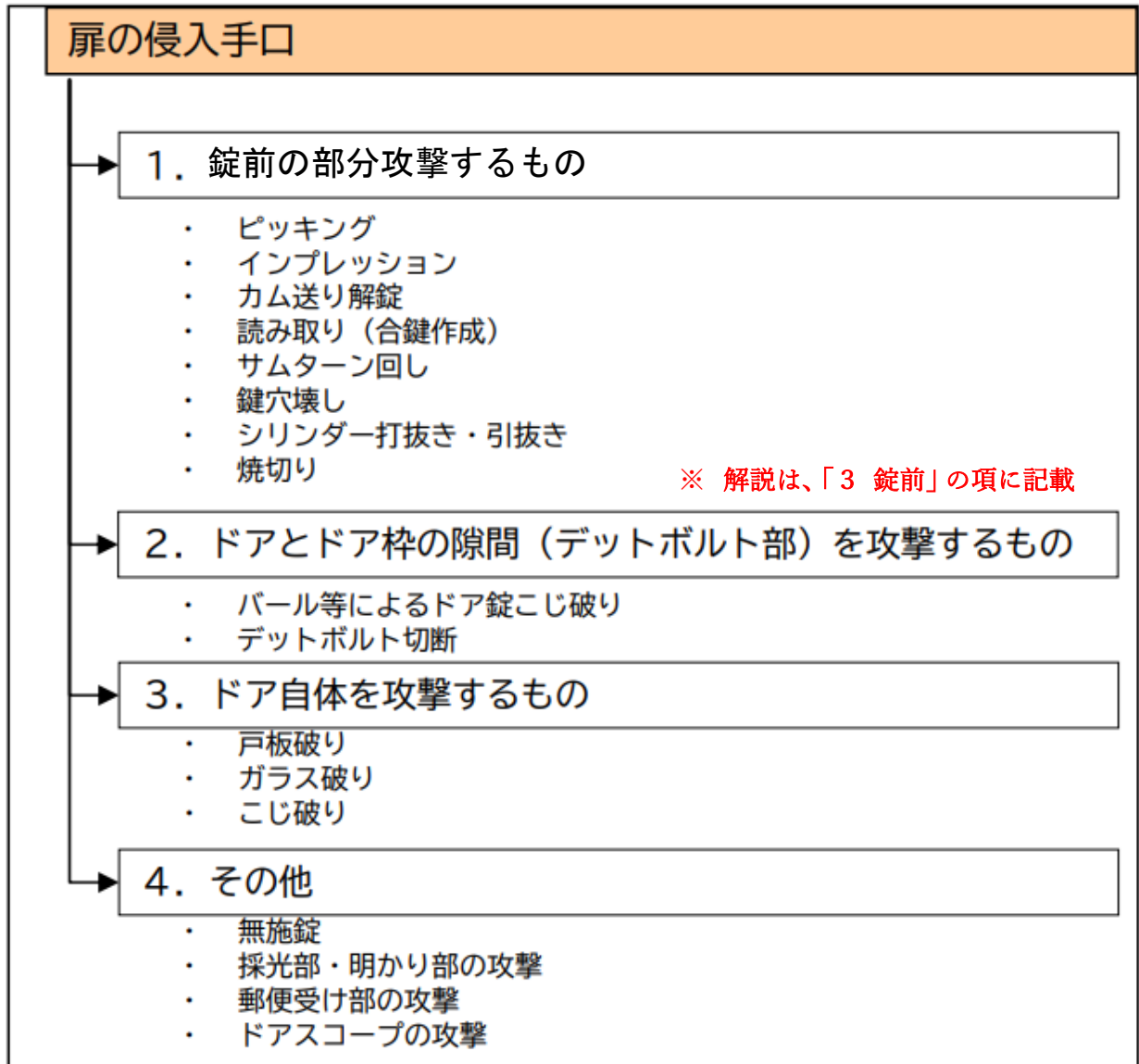


図2.1 扉からの侵入手口一覧

ア バールなどによるドア錠こじ破り

ドア錠こじ破りとは、ドアと壁の間に、釘抜きのようなL字型をした工具を押し込み、テコの原理でドアや錠を破壊する不正開錠手段です。

対策として、ドアに錠を2つ付ける「1ドア2ロック」の他に、こじ破り対策に特化した防犯製品である「ガードプレート」の取り付けをお勧めします。



写真 2.1 ドア錠こじ破り例

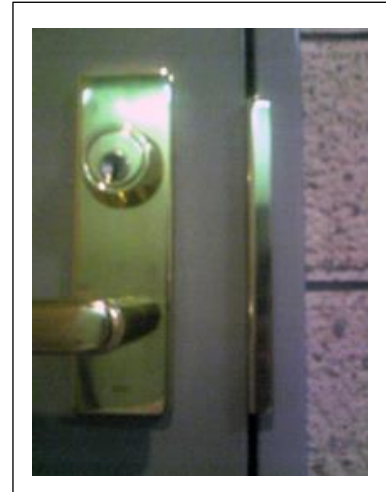


写真 2.2 ガードプレートで対策した例

イ デッドボルト切断

デッドボルト切断とは、扉と枠の隙間に金切りノコを差し込み、デッドボルト（かんぬき）を切断する不正開錠手段です。

防犯建物部品として認定（C P 認定）を受けている錠は、デッドボルト切断に対して高い抵抗性能を有しているので、それらに交換することや、1 ドア 2 ロックにするなど、犯罪企図者に時間をかけさせる対策が有効です。

ドア錠こじ破り同様、ガードプレートを取付けることにより金切りノコが隙間に入らなくする事も有効です。

（2）ドア自体を攻撃するもの

ア 戸板破り

戸板破りとは、特殊な切はさみを使ってドアに穴をあけて、手を入れてサムターンを操作して侵入する方法です。ただし、開けるまでに時間がかかるので近年では、余り使われない手口となっています。



写真 2.3 戸板破りの例

最も基本的な対策として鋼板を厚くする。最近では、フラッシュ貼り技術により、合わせ木材もある程度の堅牢性能を保てるようになりました。

イ ガラス破り

ガラス破りとは、ガラスを破壊して侵入する手段全般を指す言葉です。

ガラス破りの手口は、大きく分けて下記の通り 3 つあります。



写真 2.4 こじ破りの例

ドライバーなどの小型道具を使用し、ドア周辺のガラスに指が入る程度の小さな穴を開け、直接開錠する手口です。

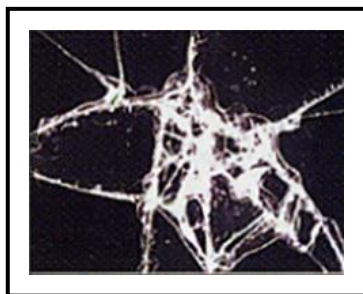


写真 2.5 打ち破りの例

大小様々な道具でガラス面を打ち破る手口です。

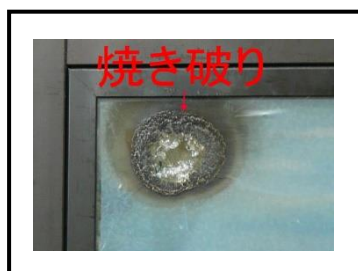


写真 2.6 焼き破りの例

火力の強いライターやバーナーでドア周辺のガラスを熱した後にガラスに穴を開ける手口です。

対策として新規の場合は、合わせガラス 7mm（ガラス 3mm+防犯フィルム約 0.8mm+ガラス 3mm）で防ぐ事ができますが、既設の場合、7mm 合わせガラスのサッシの窓枠に入らない場合があります、その時は、既存ガラスの内側全面に防犯フィルムを貼ることにより、外側からハンマーなどで叩かれても貫通させるまでに時間がかかります。



写真 2.7 ハンマーでも割れない例
(防犯フィルム)

ウ こじ破り

専用ドライバーで、錠に近い部分のドアの隙間に差し込んで無理やり、デッドボルトが見えるまで開いてドアを開ける手口である。これも時間がかかるので、かなり熟練した侵入窃盗犯でないと対応が難しい。

対策として、ドアに錠を 2 つ付ける「**1 ドア 2 ロック**」の他に、こじ破り対策に特化した防犯製品である「**ガードプレート**」の取り付けをお勧めします。

(3) その他

ア 無施錠

無施錠（むせじょう）とは、施錠していない（鍵をかけていない）という意味です。外出時のみならず在宅時であっても施錠していなければ、無施錠となります。侵入窃盗手口の 50% 以上が無施錠であるので、外出時、帰宅時はもちろんのこと、ごみ捨てなどの少しの間であっても必ず施錠することを心掛ける必要があります。特に地方に行けば行くほど無施錠が慣例化していることが多いので、地域住民で注意喚起を図るなどし、施錠することを習慣化することが重要です。

対策として、常に鍵を掛ける習慣を心がける。さらに在宅時であっても鍵を掛ける事が重要で「居空き」の防止にも有効です。

スマートフォンを利用し、外出先からでも施錠しているかどうか確認ができ、遠隔施錠操作も可能なスマートロックを使用することも有効です。

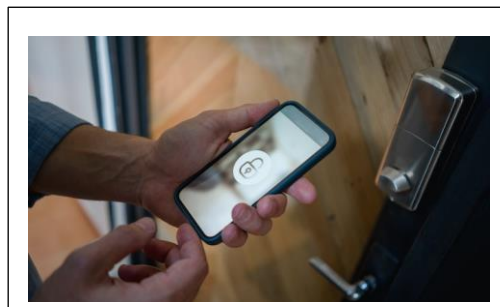


写真 2.8 スマートロック使用の例

また、鍵の閉め忘れを確認できるグッズを活用することも有効です。下の写真のグッズは既存の鍵に簡単に装着することができ、鍵で施錠／解錠操作すると表示窓の色が変わり、視覚的に施錠／解錠状態をチェックできるので施錠忘れ防止に役立ちます。

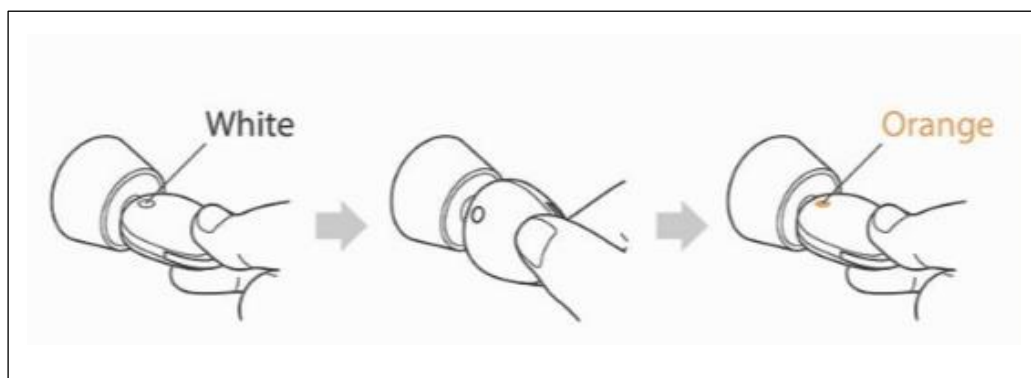


図 2. 2 カギの閉め忘れ防止グッズ

イ 採光部の攻撃

玄関扉等に採光部がある場合は、そこを破られ、手や用具を差し込んでサムターン回しなどがされる場合があります。

採光部は、できる限り小さくし サムターンから離れた位置に設置するか、防犯ガラスを採用することが望ましい。(防犯建物部品等の扉は、これらの対策がとられている。)

ウ ドアスコープの攻撃

玄関のドアスコープは、取り外しが可能なものが多い。これを利用して、外した穴からサムターン回しという手口で空き巣が侵入してしまうことがあります。



写真 2.8 ドアスコープの取外し例

【参考】 玄関のドアスコープといえば、誰が来たのかを確認したり外の様子をうかがったりするときに覗くもの、という捉え方が普通です。しかし、玄関の外側からでも覗ける「リバースドアスコープ」と呼ばれるものがあります。本来、リバースドアスコープの目的は自己防衛や防犯で使用するものですが、現実には覗きや空き巣が室内を確認するために悪用しているケースが多い商品なのです。

ドアスコープの防犯対策については、リバースドアスコープで中を覗かれないための対策と、ドアスコープを外側から外されないようにするための対策など、合わせて3つ紹介します。

(ア) 取り外しに対する対策としては、ドアスコープそのものを、外側からは外せないタイプに交換してしまう方法です。

ドアに差し込む部分はネジ山になっているが、そのネジ山に空転機能が付いているドアスコープが販売されています。既存のドアスコープを外して交換します。

(イ) リバースドアスコープによる覗き見を防ぐのに最も手軽な対策は、ドアスコープ用の目隠しカバーを取り付ける方法です。両面テープなどでドアスコープを覆うようにカバーを取り付けるのが一般的です。外の様子を見たいときは、指1本でカバーをずらすだけで済みます。フックを買ってきてドアスコープの上に貼り付け、そのフックに小物などをかけて隠してしまうといった方法でも効果的です。

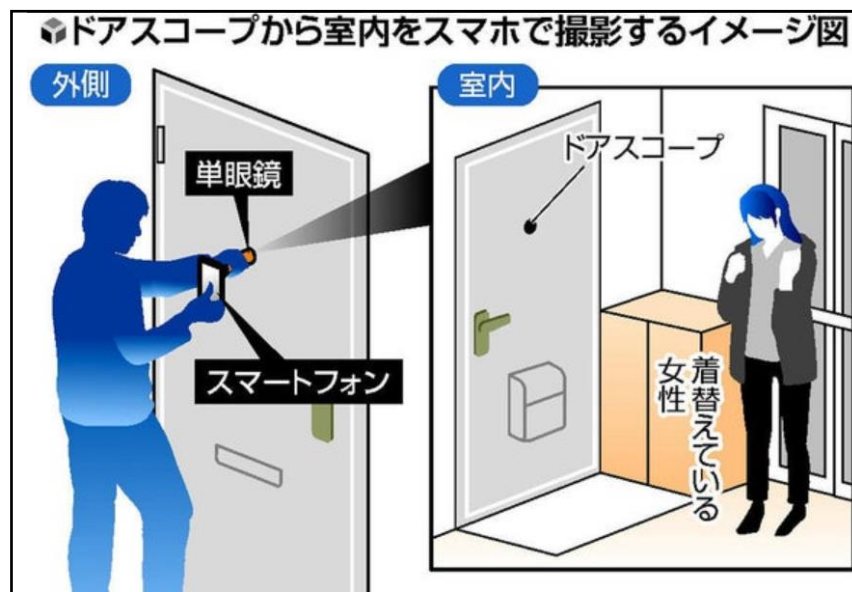


図 2.3 のリバースコープで覗いたイメージ

- (ウ) ドアスコープ型の防犯カメラも販売されています。ドアスコープのレンズ部分を交換し、防犯カメラのレンズになるというものです。防犯カメラにはモーションセンサーや振動センサーが搭載されているものも多くあります。ドアに人が近づいたり、ドアスコープを外そうとする振動に反応したりして、自動で録画を開始するものが一般的です。配線が必要なものと、乾電池式で配線不要なものなどもあります。



写真 2.9 ドアスコープ用の防犯カメラ例

2.4 玄関の対策

- (1) ドアとドア枠の隙間（デッドボルト部）を攻撃するものや、ドア自体を攻撃する手口による侵入を抑制するため、玄関扉や勝手口扉そのものを抵抗性能を備えるものにする必要があります、扉（枠も含む。）に**防犯建物部品**等を設置します。
やむを得ず防犯建物部品等が設置できない場合は、扉（枠を含む。）は、その材質をスチール製等の破壊が困難なものとし、デッドボルト（かんぬき）が外部から見えない構造のもの又はガードプレート等を設置したものとします。

(2) 周辺を含めた玄関の防犯対策

- ア 玄関は、道路又は周囲から見通しが確保された位置に防犯建物部品等の扉を配置したものとします。
道路等からの見通しが確保されない場合には、門扉の設置等により玄関付近への侵入防止に有効な措置を講じたものとします。



図 2.4 見通しがいい一戸建住宅例

- イ 住宅の玄関扉の錠は、防犯建物部品等の錠を設置したものとします。
- ウ 住宅の玄関扉は、外部の様子を見通すことが可能なドアスコープ等を設置したものとするとともに、錠の機能を補完するドアチェーン及びドアガード等を設置したものとします。

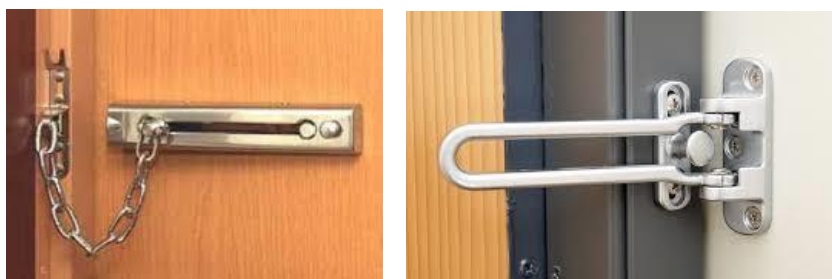


写真 2.10 ドアチェーンとドアガードの例

- エ 住宅内には、玄関又は門扉の外側との間で通話が可能な機能等を有するインターホン又はドアホンを設置すること。



写真 2.11 テレビドアホンの例



写真 2.12 インターホンの例

- オ 玄関、門等には、照明設備を設置すること。



写真 2.13 センサー付ライトの例

- カ 防犯カメラを設置して、見通しの確保を補完すること。



写真 2.14 門扉に設置例

(3) 防犯性能の高い建物部品（C P 部品）とは？

官民合同会議では、「建物部品の防犯性能とは、工具類等の侵入器具を用いた侵入行為に対して建物部品が有する抵抗力をいうものとする。」としています。各商品ごとに定められた試験を行い、抵抗時間が5分以上であることが確認されたものを「防犯性能の高い建物部品」と定義されています。警察庁、国土交通省、建物部品関係団体からなる「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」（以下「官民合同会議」と言う）が認定・公表しています。（目録登掲載数：17種、3,461品目（2023年8月現在））低層階の一戸建住宅についてなので、ドアについて説明します。

ア ドア

主として3階建て以下の木造住宅及び工業化住宅（プレハブなど）の玄関入口としてアルミニウム製、スチール製、木製などがあり、バリエーションとして片開き、親子開き、両開きがあります。



図 2.5 CP 部品のドアの特長

イ CP 部品の玄関ドアでない場合の対策

- * こじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられているデッドボルトが外部から見えない構造とするか、ガードプレート等を設置します。
 - * ドアチェーンまたはドアガードを設置します。
 - * 玄関ドアは1 ドア 2 ロックとし、不正開錠を困難にする措置を講じます。
 - * ロックを補助錠で補完する場合は、防犯建物部品等の面付本締錠を設置します。
 - * 室外側からの覗き見を防止するためのフタ付等のドアスコープを設置します。
- または、玄関ドア前に設置されたカメラの映像を映し出すモニター機能を有するカメラ付きインターホンを設置します。

2.5 チェックポイント（出入口扉）

（1）玄関

- 防犯建物部品等の扉であること、又はこじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられていること。（全て合致すること）
 - ア 防犯建物部品等（CP 部品）の扉です。
 - イ 防犯建物部品等以外の玄関扉の場合は下記に合致すること
 - （ア）こじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられているデッドボルトが外部から見えない構造であるか、ガードプレート等の設置などの措置がとられています。
 - （イ）玄関ドアに、ドアチェーンまたはドアガードが設置されています。
 - （ウ）ガラスを設置する場合は防犯合わせガラス等、防犯性能を有するガラスになっています。

□ 錠は、防犯建物部品等の錠であること。また、補助錠が設置されていること。

(1つ合致すること)

ア 玄関ドアは防犯建物部品等で、1 ドア 2 ロックとし、不正開錠を困難にする措置が講じられています。

イ ロックを補助錠で補完する場合は、防犯建物部品等の面付本締錠が設置されています。

□ ドアスコープ、ドアチェーン等が設置されていること。(1つ合致すること)

ア 防犯建物部品等 (CP 部品) の扉です。

イ 防犯建物部品等以外の玄関扉の場合は下記に合致すること

(ア) 室外側からの覗き見を防止するための フタ付等のドアスコープが設置されています。

(イ) 玄関ドア前 に設置されたカメラの映像を映し出すモニター機能を有するカメラ付きインターホンが設置されています。

□ 防犯カメラで扉の防犯を補完すること。

ア 扉の外から見て死角を作らないで設置されていること

死角があるとせっかく防犯カメラを設置しても防犯効果が激減します。

イ 個人情報配慮した角度・画角を設定しているか。

詳細については、防犯カメラの頁に記載

ウ 防犯カメラの存在をアピールしているか。

単に防犯カメラを設置するだけでなく、その存在をアピールすることにより

犯罪抑止効果につながる可能性が高い。

(2) その他の出入り口 (勝手口等)

□ 防犯建物部品等の扉であること、又はこじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられていること。

(全て合致すること)

ア 防犯建物部品等 (CP 部品) の扉です。

イ 防犯建物部品等以外の玄関扉の場合は下記に合致すること

(ア) こじ開け等の破壊防止に有効な措置が講じられているデッドボルトが外部から見えない構造であるか、ガードプレート等の設置などの措置がとられています。

(イ) ガラスを設置する場合は防犯合わせガラス等、防犯性能を有するガラスになっています。

□ 錠は、防犯建物部品等の錠であること。また、補助錠が設置されていること。

(1つ合致すること)

ア ドアは防犯建物部品等で、1 ドア 2 ロックとし、不正開錠を困難にする措置が講じられています。

イ ロックを補助錠で補完する場合は、防犯建物部品等の面付本締錠が設置されています。



写真 2.18 面付本締錠の例

3. 錠前（出入口扉）

3.1 防犯診断基準と解説

錠は、防犯建物部品等の錠であること。また、補助錠が設置されていること。

錠は、防犯建物部品として認定（CP 認定）を受けている錠、または外国の基準によりそれと同等の性能を有する錠が設置されていることが防犯面からは望ましい。また補助錠（こちらも CP 認定錠が望ましい）が設置され、1 ドア 2 ロックとなっていることが不正開錠による侵入対策としては非常に有効です。

CP 認定を受けている錠とは、次のような各不正開錠の手段・手口に対し、侵入企図者の多くが侵入をあきらめるとされる 5 分以上の抵抗性能を有する、防犯性能に優れた錠です。

3.2 手口（錠前を攻撃するもの）

（1）ピッキング

針金のような専用工具をシリンダー（鍵穴）部分に差し込み、シリンダー内部を操作して不正開錠する手段。

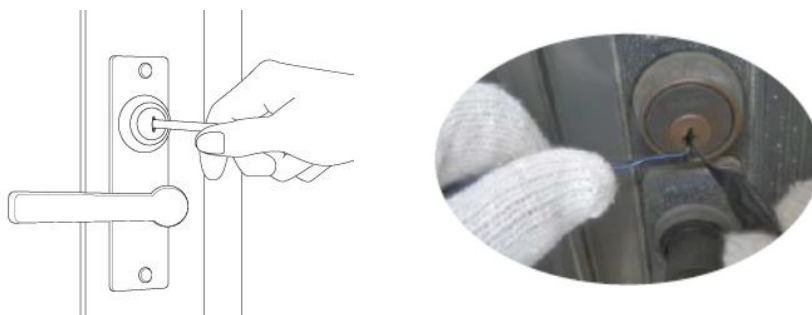


図 3.1 ピッキングによる侵入例

（2）インプレッション

シリンダーにブランクキー（刻みの無い鍵）を挿入し回そうとテンションをかけることでブランクキーに付く傷などを基に、ブランクキーを削っていき、合鍵を作成し不正開錠する手段。

（3）カム送り（バイパス解錠）

シリンダー とドアの間に特殊な工具を差し込み、直接扉内の錠前を作動させ不正開錠する手段。

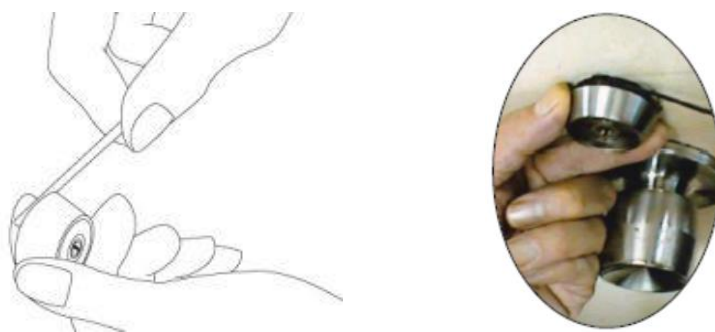


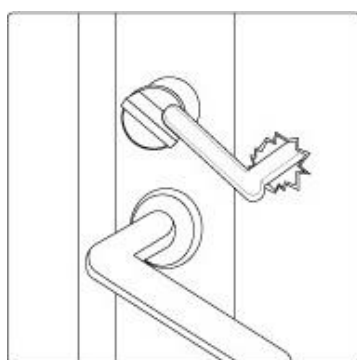
図 3.2 カム送による侵入例

(4) 読み取り

シリンダー（鍵穴）内部をスコープなどで覗き、内部の部品から鍵の刻みを推測（読み取り）し、合鍵を作成し不正開錠する手段。

(5) サムターン回し

扉にドリルを使って穴を開ける、ドアスコープを破壊するなどを行い、そこから金属の棒・工具などを使って、内側のサムターンを回転させて不正開錠する手段。



実際に被害にあったドアの写真

図 3.3 サムターン回しによる侵入例

(6) 鍵穴壊し

鍵穴（シリンダー）をドリルやホルソーを使って破壊し、不正開錠する手段。

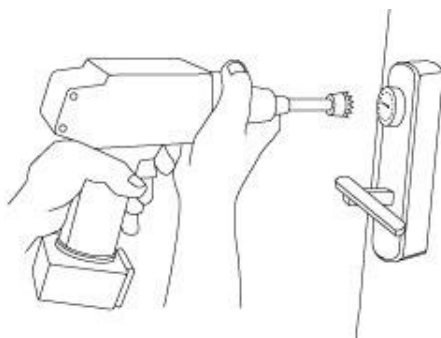


図 3.4 鍵穴壊しによる侵入例

(7) シリンダー打抜き・引抜き（シリンダーもぎ取り）

シリンダー及び、シリンダーのついたノブを強引にもぎ取って、不正開錠する手段。

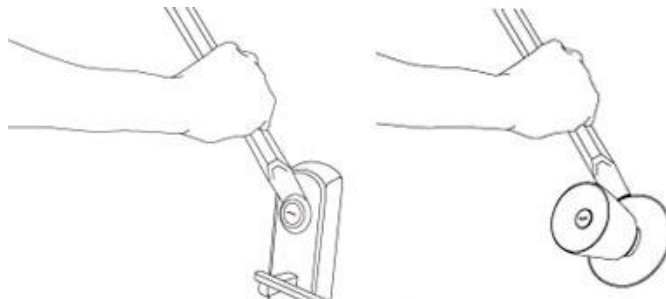


図 3.5 シリンダー打ち抜きによる侵入例

特にドアノブにシリンダーがついている円筒錠は、勝手口で使用されていることが多いが、このドアノブは特殊な工具でひねると容易に壊れてしまうため、早急な対策が必要です。

(8) 焼切り

シリンダーを携帯型ガスバーナーなどで加熱溶解させ、その部分から不正開錠する手段。

なお、やむを得ない理由で CP 認定錠を設置できない場合でも、鍵と鍵穴（シリンダー部）をディンプルキータイプ（鍵の表面や側面にくぼみがあるタイプ）へ交換、サムターンは防犯サムターンへ交換するなど、各錠前メーカーが販売しているセキュリティ性の高い防犯部品に交換し、少しでも防犯性を向上させること。また補助錠を追加し 1 ドア 2 ロックとすることが侵入対策に有効な手段です。

3.3 錠のチェックポイント

□ 1 ドア 2 ロックとなっているか。

（1）不正開錠に対し、困難かつ時間をかけさせる措置が講じられています。

□ 少なくとも 1 ロックは、CP 認定錠（または外国の基準によりそれと同等の性能を有する錠）が設置されているか。

（2）錠部分への様々な不正開錠手段・手口に対する措置が講じられています。

4 窓

4.1 防犯診断基準

窓(侵入されるおそれのない小窓及び避難を考慮する必要がある窓を除く。以下同じ。)のうちバルコニー、庭等に面するもの以外のものには、面格子の設置等、侵入の防止に有効な措置が講じられていること。

バルコニー、庭等に面する窓には、錠付クレセント及び補助錠の設置等、侵入の防止に有効な措置が講じられていること。

4.2 侵入状況の割合

侵入された住宅は、人目につきにくい窓のある住宅で、クレセントを外せば簡単にに入れる家が多く、侵入箇所は窓からの侵入が7割を超えており、最も狙われやすい窓は、掃出し窓になっています。

侵入方法はガラス破りが6割を占め、次いで無施錠が3割となっています。

4.3 対策

このことから、以下のことが防犯上有効です。

- (1) 人目のつかない窓へは、面格子、防犯合わせガラス等侵入防止対策をとります。
- (2) 窓の鍵にはクレセントの他に、補助錠を設ける。
- (3) 掃出し窓には、優先して侵入防止対策を行う。
- (4) 日々玄関や窓は無締まりにならないよう留意します。



図 4.1 補助錠の設置例

4.4 用語の説明

(1) 侵入の恐れある窓とは

人が近寄れる1階の窓や伝い渡できる上階の窓やバルコニーに面している窓を言います。

(2) 侵入防止に有効な措置

防犯建物部品 (CP 認定品) に登録されている防犯サッシに防犯合わせガラスや防犯フィルムを組み合わせた窓 (以下防犯合わせガラス等)、防犯面格子付きの窓などや、同等の防犯性能を有する窓が侵入防止に有効です。

(3) 防犯サッシ (防犯合わせガラス等が別途必要です)

防犯サッシ (CP 認定品) はクレセント以外に補助錠がついており、外部からサッシを持ち上げてもサッシが外れないよう工夫されています。

(4) 防犯合わせガラス

防犯合わせガラス (CP 認定品) とは、合わせガラスの間に中間膜 (PVB) のフィルム厚さ 30 ミル (約 0.8 ミリ) 以上を挟みこんだものをいいます。複層ガラスにも対応できます。



注：写真ではセキュオ30がフィルム厚30ミルとなっている。

写真 4.2 防犯合わせガラスと一般的なガラスの割れ方の違い

(5) 防犯フィルム

防犯フィルムとは、フィルムの厚みが350 μ m以上で、日本ウインドウ・フィルム工業会が指定する接着剤を使用し、防犯フィルム施工技能者（国家検定技能士）が厚み5mm以上のフロートガラス及び3mm厚複層ガラスに施工するものをいいます。



写真 4.3 防犯フィルムを使用した場合のガラスの壊れ方

(6) 防犯面格子

一般の面格子は見かけより脆弱です。CP 認定品の防犯面格子は、切断に強く、格子が外されにくい面格子に補強されています。

4.5 窓のチェックポイント

☐ テラス戸はサッシとガラスの両方が侵入防止に有効な措置が取られていますか。

- (1) 1. サッシ、ガラスともに防犯建物部品になっています。
- (2) サッシは鍵付きクレセントに加えて補助錠を設置し、ガラスには防犯フィルムを貼っています。

☐ バルコニーの窓

- (1) サッシ、ガラスともに防犯建物部品になっています。
- (2) サッシは鍵付きクレセントに加えて補助錠を設置し、ガラスには防犯フィルムを貼っています。
- (3) バルコニーには伝い渡りができないようになっているので、侵入の恐れがない。

☐ その他の窓

- (1) サッシ、ガラスともに防犯建物部品になっています。
- (2) サッシは鍵付きクレセントに加えて補助錠を設置し、ガラスには防犯フィルムを貼っています。
- (3) 防犯面格子が設置されています。
- (4) 該当する窓に人が近づくことができないようになっています。

5 バルコニー

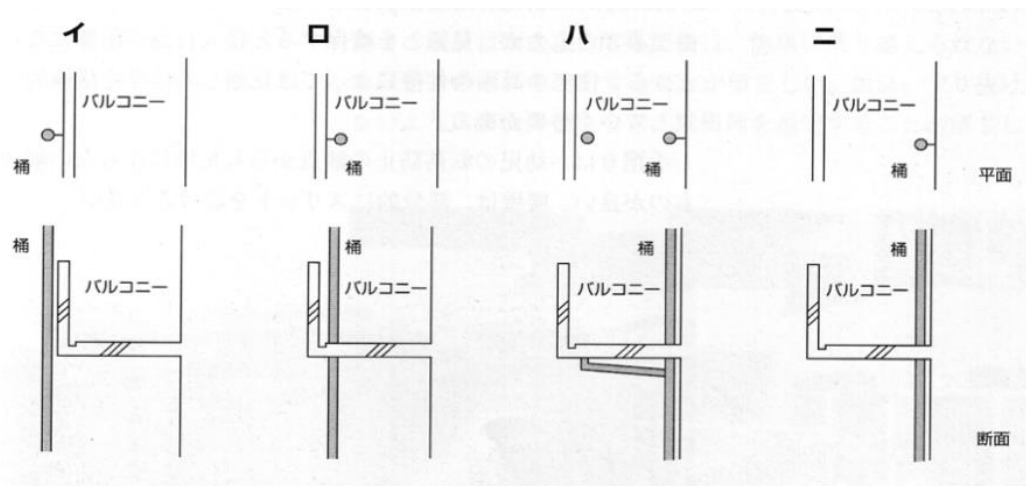
5.1 防犯診断基準

- (1) 縦どい、手すり等を利用した侵入の防止に有効な構造を有すること。
- (2) 手すりは、プライバシーの確保、転落防止及び構造上支障のない範囲において、見通しが確保されたものであること。

5.2 バルコニーの内部へ侵入を防止する方法（対策）

(1) 樋からの伝い渡り

樋を伝い渡りして入れないようにするためには、4-1 図ハ、ニのように縦樋がバルコニーの奥にあると安全です。イやロは外壁から伝い渡りが容易にできますので、樋に忍返し等の設置が必要です。



5.1 バルコニーと縦樋の関係図

注：写真の忍び返しは、樋に2箇所間隔をあけて設置しており、樋を利用した伝い渡りができないよう工夫されています。

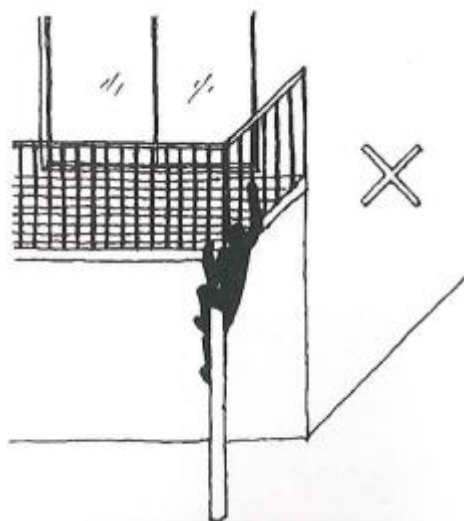


写真 5.4 バルコニー樋に忍び返しを設置した例

図 5.1 柱建て式のベランダは侵入されやすい

(2) 手摺等を利用した侵入

- ア 4-3 図 a 図のように手摺の立上り部までの離隔距離が小さく、容易に手が掛かる場合は、バルコニーへの侵入を可能にします。
- イ 侵入が可能なバルコニーの場合、内部の窓には防犯サッシなどの侵入防止に有効な措置をとります。
- ウ 4-3 図 b 図のように、バルコニーの立ち上がりの高さを大きくすることで、手がかりまでの離隔距離が大きくなって侵入防止することができます。

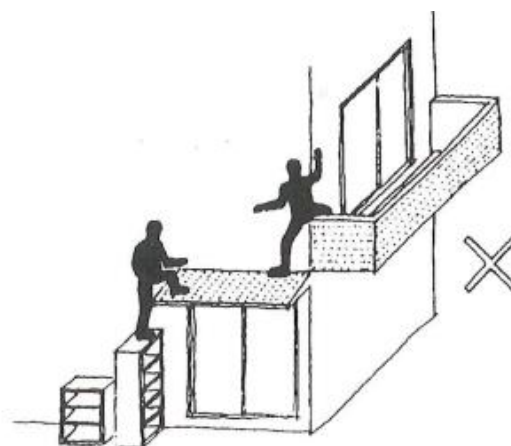


図 5.2 ベランダの足場になるものとの位置関係に留意する

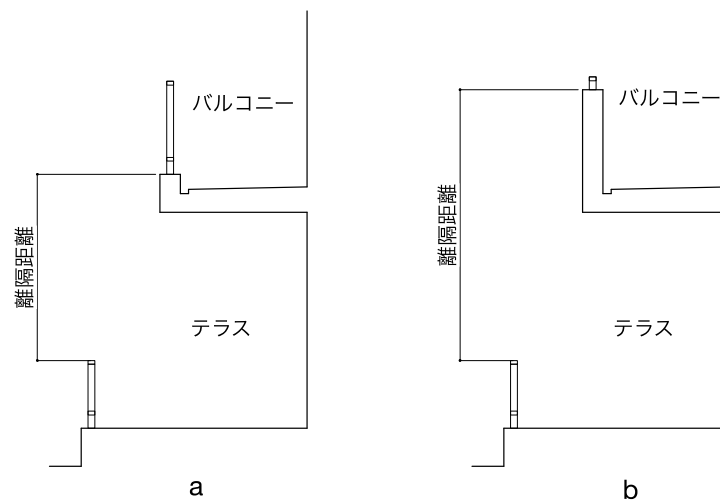


図5.3 バルコニー内部の侵入防止

- (3) バルコニー内の見通しの確保
バルコニーは、プライバシーの確保をしつつ、転落防止及び見通しを確保することが重要です。

- ア 死角があるバルコニーは、防犯窓であっても侵入する際の時間制約がなくなるためいずれ破られてしまうリスクがあります。
- イ 見通しの確保には、道路からの見通しのほか、住宅内からの見通しで補完する方法があります。

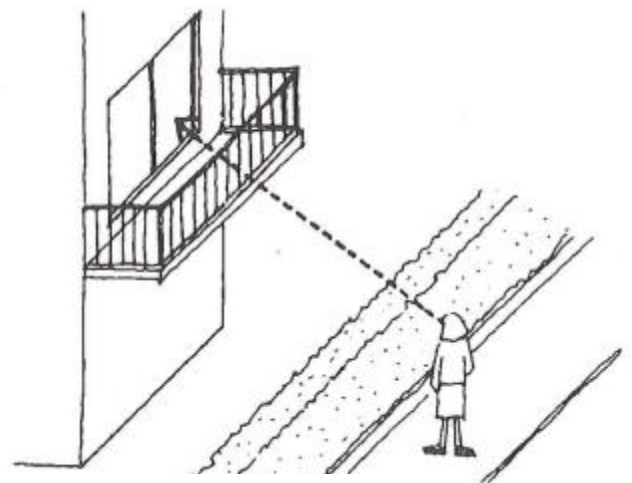


図 5.4 見通しのきいた構造のベランダ

- ウ 図 5-5 では a 図のように、窓台が高い場合は道路からの見通しがあっても、死角が生じる場合があります。
- エ 図 5-5、6 のように、道路からの見通しが期待できない場合に、部屋からの窓で見通しを補完する方法もあります。

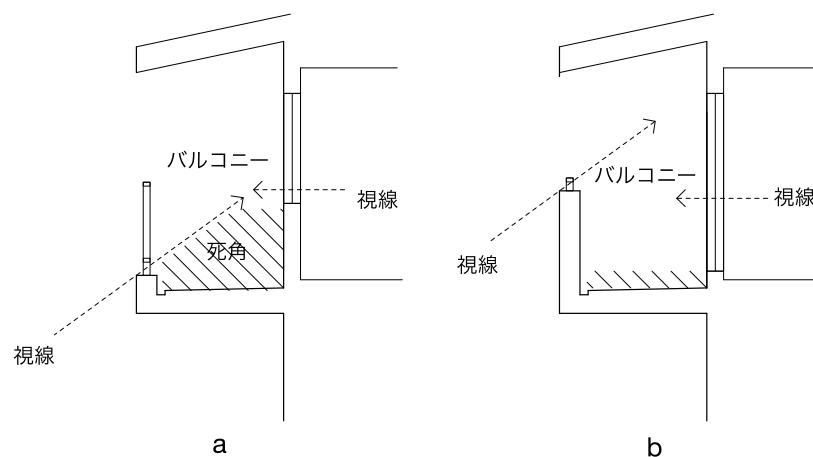


図5.5 バルコニー内部の死角解消の考え方

5.3 バルコニーのチェックポイント

□たて樋

- (1) たて樋はバルコニーの奥に設置しています。
- (2) たて樋での伝い渡りが考えられるバルコニーには、忍び返しを設置しています。

□バルコニーへの離隔距離

- (1) バルコニーへの伝い渡りができないよう離隔距離は大きく確保されている。
- (2) バルコニーへの侵入が考えられる場合は、防犯サッシ等の侵入防止対策を講じています。

□バルコニー内部の見通し

- (1) バルコニー内部の見通しは確保されています。
- (2) バルコニー内部の見通しが確保されてない場合、侵入を感知する防犯器具（防犯ライトやマグネットセンサー、ガラス破壊センサーなど）の設置がされています。
- (3) バルコニーへの侵入はできないようになっています。

6 門扉

6.1 防犯診断基準

- (1) 門扉は、乗越えが容易にできない材質・構造・高さとする。
- (2) 原則として施錠・解錠が容易な錠を設置すること。外部から鍵なしで解錠できないよう、錠の位置や門扉の形態・構造・高さに留意すること。
- (3) 門扉の内外の見通しが確保されていること。
- (4) 門扉の内外において、人の行動が視認できる程度以上の照度を確保すること。
- (5) 郵便受けやインターホンなどはまとめて門扉に設置し、電気メーターやガスメーターもまとめて配備するのが望ましい。

6.2 留意事項

- (1) 門扉や囲障の設置は必ずしも設置しなければならないものではありません。
しかしながら、設置しない場合は、玄関や勝手口、掃出し窓や窓の前に犯罪企図者が直接接近できることとなりますので、それぞれの開口部が、より防犯性能を求められることとなります。
- (2) 侵入窃盗の被害を受けた住宅のケースでは、門扉のある住宅であっても道路から敷地内へ直接侵入している場合がほとんどであり、特に、道路等からの見通しの悪い位置に、玄関や勝手口、掃出し窓のある住宅が被害にあっています。道路からの死角に開口部のある住宅にあっては、門扉と囲障を有効に設置の上、門扉は施錠することが、より必要です。
- (3) 道路から敷地内に侵入される原因は、門扉や勝手門の無施錠が大きな要因となっています。門扉や塀や柵を設置しても、防犯性能が発揮できないのでは意味がありません。これらを生かすためには、留意事項を実施することが大切です。

6.3 用語の説明と対策

- (1) 越えが容易にできない材質・高さ・構造とは

ア 材質は、腐食して倒壊しにくい材質を選択します。木製でもメンテナンスを行うことで使用が可能です。アルミ製やスチール製の場合は防錆処理を行ったものを使用します。

イ 乗越えが容易にできない高さとは

足がかりから高さ 1.8 メートル程度を標準的な高さとして、道路や路地からの見通しの良し悪しや、周辺の街並みの景観等に応じて加減して決定します。

ウ 構造では横格子やグリッド状格子など足が掛かり易い形状は避け、縦格子などの乗越えにくい構造とします。

- (2) 門扉の施錠

これまでの門扉に用いられてきた錠は、掛金に南京錠で鍵をかけるタイプ

など、施錠に手間のかかるものが多く、無施錠の要因となっていました。また、門扉の錠前の種類が少なかったことも要因の一つでした。現在では、電磁石を用いた電気錠タイプの錠や、門扉用の錠前の種類が増え選択可能になったので、以前より施錠操作のしやすいものになっています。



写真 6.1 門扉の施錠された例（裏側）

- (3) 外部から鍵なしで解錠できない門扉とは
高さの低い門扉や、格子の隙間の大きい門扉は、外部から門扉の掛金まで手を伸ばして開錠できてしまいます。これでは解扉の防犯性能が発揮できませんので、外部から掛金まで手が届かないように下記の点を検討します。

- ア 手が入ってしまう格子の場合は、手が届く範囲までアクリル板やアルミパネル等で格子部分を覆うか、格子の間隔を狭くして手が入らないようにします。
- イ 門扉上部から手が掛金に届く場合は、門扉の高さを大きくするか、または、サムターンをワンアクションでは開けにくい機能のものを検討します。



図 6.1 外から鍵を解錠できないような高さ・構造・形態に留意する。

(4) 門扉内外の見通し

- ア 防犯の観点からは、門扉の外側から玄関扉を見通せるようにします。
- イ 門扉の内側からは、外部を見通すことができ、門扉の影に人が隠れることができない形態にします。
- ウ 植栽などの配置についても、門扉から玄関や掃出し窓への視線を遮らないように計画します。

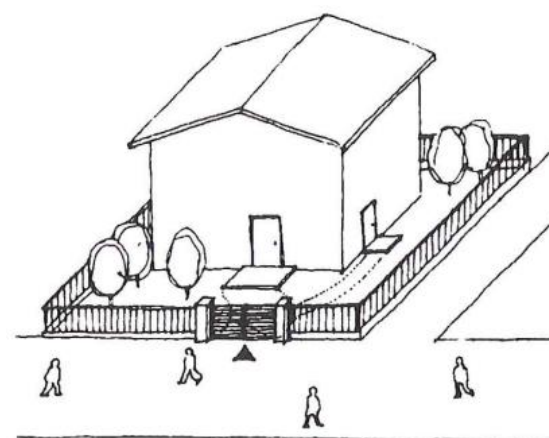


図 6.2 人通りの多い通りや周囲の目の届く位置に設置する。

(5) 門扉内外の照度

- ア 犯罪企図者への監視性を確保するための夜間照明の設置が必要です。
- イ 門扉の内外の照度については、床面において4メートル先の人の行動が視認できる程度以上の照度を確保するようにします。
(3ルクス※要検討事項)



(6) 郵便ポスト・新聞受けやインターホンをまとめて設置

- ア インターホンはテレビ付きインターホンが望ましいです。最近ではワイヤレスで設置できるタイプが発売されているので、電気配線ができない場合でもテレビ付インターホンの設置が可能です。
- イ 郵便ポスト・新聞受けは施錠できるものを設置します。
- ウ 敷地の外部と内部の領域性を明確にする上で、袖になる門柱や門扉にインターホンを設置し、新聞受けを併設して、第3者が住宅の敷地内に入る機会を減らすようにゾーニングを行います。
- エ 内外の領域性をより明確にするため、門扉の外部へ宅配ボックス、電気メーター、ガスメーター、水道メーター（床面）を集約することを検討します。

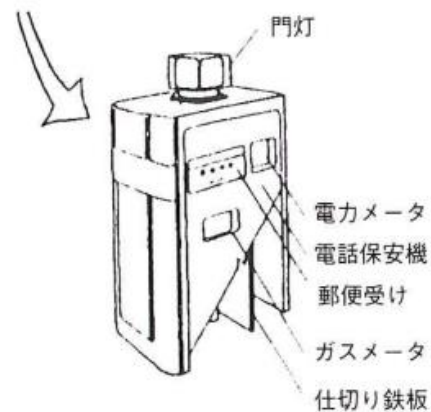


図 6.3 多機能付門柱の例

6.4 門扉のチェックポイント

□門扉は、乗越えが容易にできない材質・構造・高さとすること。

(全て合致すること)

- (1) 門扉の材質は防蟻・腐食防止加工がしてある
- (2) 門扉に足がかりがない。
- (3) 門扉の高さは 1.8m 程度、または道路からの見通しの良い場合は高さ 1.2m 程度 (※要検討事項) 確保している。

□原則として施錠・開錠が容易な錠を設置すること。外部から鍵なしで開錠できないよう、錠の位置や門扉の形態・構造・高さに留意すること。

(全て合致すること)

(1) 施錠・開錠が容易な錠を設置しています。

(2) 外から鍵なしでは開錠ができない。

□ 門扉の内外の見通しが確保されていること。(どれか1つ合致すること)

(1) 門扉内外の見通しは確保されています。

(2) 侵入の恐れある開口部に防犯カメラが設置されています。

(3) 侵入の恐れある開口部には防犯性能の高い扉や窓を設置しています。

□ 門扉の内外において、人の行動が視認できる程度以上の照度を確保すること。

(1) 門扉内外の床面において4メートル先の人の行動が視認できる程度以上の照度が設置されています。(3ルクス※要検討事項)

□ 郵便受けやインターホンなどはまとめて門扉に設置する。電気メーターやガスメーターもまとめて配備するのが望ましい。(推奨事項)

(1) 郵便受け・新聞受け、インターホンは門扉の外側に設置しています。

(推奨事項)

(2) 電気メーター、ガスメーター、水道メーターは門扉の外側に設置しています。

(推奨事項)

7 囲障・生垣

7.1 防犯診断基準

- (1) フェンスや塀は、乗越えが容易にできない材質・構造・高さとすること。
- (2) 設置する位置は、掃出し窓など侵入の恐れのある出入口や窓に近づけないよう有効に設置すること。
- (3) 掃出し窓など侵入の恐れのある出入口や窓に対して、道路や路地からの視線を遮らないよう設置すること。
- (4) 駐車場を附置する場合は、駐車スペースの外部、或いは住宅側どちらかに囲障を設けること。
- (5) 植栽は侵入の恐れある開口部に対して、周囲からの見通しを妨げないよう樹種の選定や植栽の位置を配慮することが望ましい。

7.2 用語の説明と対策

- (1) 囲障とは、敷地境界線上に設置した塀やフェンス（柵）などを言います。

戸建住宅で侵入経路となったケースでは1階の窓からの侵入が約7割を占めています。そのうちの7割が居室・居間の窓が侵入経路となっています。次いで玄関ドア、台所窓等、勝手口の順で多く、2階の窓も侵入経路になっています。

そのため、塀やフェンスの設置により犯罪

企図者が道路から1階窓へ接近しにくくすることは有効です。前面道路から見えにくい掃出し窓や窓は、特に狙われやすいので、より防犯性能を確保する必要があります。塀やフェンスや生垣、植栽を設置する場合は、死角が生じないように計画することも大切です。

- (2) 乗越えが容易にできない材質・構造・高さ

ア 材質は、腐食して倒壊しにくい材質を選択します。

アルミ製やスチール製では防錆処理を行ったものを使用します。

イ コンクリートブロック塀は地震に弱いので、低部に限定して使用するようにします。

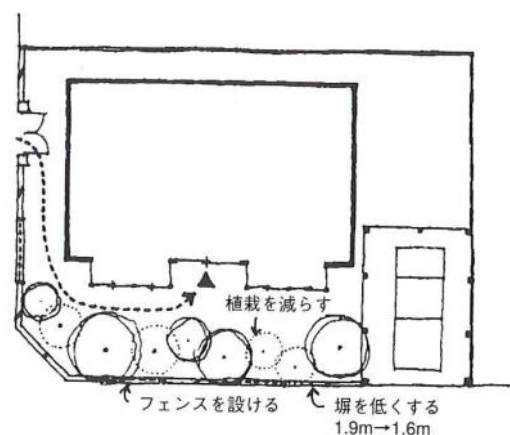


図 7.1 囲障の設置例

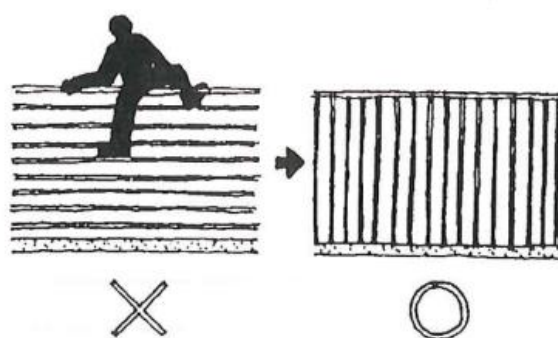


図 7.2 足場をつくらない柵が望ましい

- ウ 乗越えが容易にできない高さとは、足がかりから高さ1.8メートル程度を標準的な高さとして、道路や路地からの見通しの良し悪しや、周辺の街並みの景観等に応じて加減して決定します。
- エ 横格子やグリッド状格子など足が掛かり易い形状は避け、登りにくい構造とすることが望ましいです。
- オ 忍び返しを設置したり、上端を変形しやすい構造にするなど、人が塀やフェンスの上部に乗りにくい形状にすることも有効です。



図 7.3 上方への足場にならないよう留意する。

(3) 出入口や窓に近づけないように設置

- ア 道路から直接窓に接近できないよう設置する。
- イ 囲障を設置したことにより、2階への足がかりになる場合も想定されるため、足がかりにならないよう登りにくい構造とし、上部に乗りにくい形状にすることを検討します。

(4) 道路や路地からの視線を遮らないよう設置

- ア 囲障は視線を遮らないタイプのものを推奨します。
- イ 塀を設置する場合、塀が視線を遮ってしまうので、一定の間隔以下で塀を切り下げて切り下げた部分を見通しの良いフェンスに変えることで視線を遮らない塀にすることを検討します。

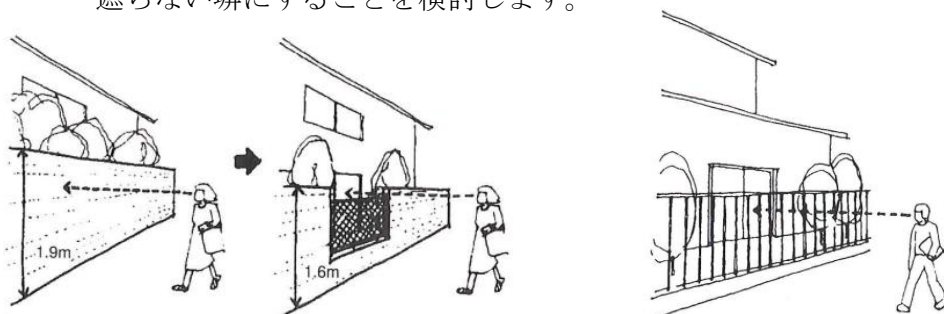


図 7.4 囲障は見通しをよくする。

(5) 駐車場を附置する場合

駐車場を附置する場合は、道路と駐車場の境界線、または、駐車場とそれ以外の敷地との境界に囲障・生垣を設置するようにします。

- (6) 植栽等は周囲からの見通しを妨げないよう樹種の選定や植栽の位置を配慮
- ア 生垣の高さは見通しを妨げないよう目線の高さ1.5mを超えないように剪定するようにします。
 - イ 高木を敷地内に配置する場合は、樹種や成長する高さ等を含め、道路等から侵入の恐れのある開口部などへの視線を遮らないように計画します。
 - ウ 物置きなどを敷地に設置する場合も、見通しを妨げない位置に設置することを検討します。

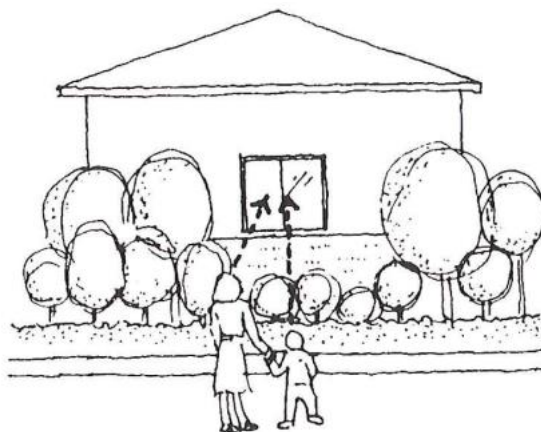


図 7.5 植栽は周囲からの見通しを妨げないように配慮する。

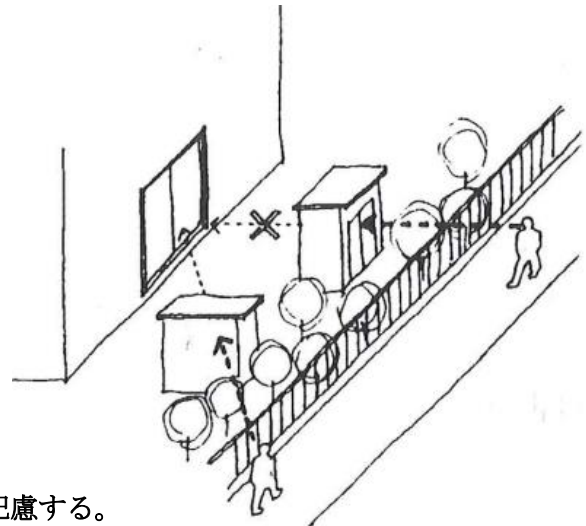


図 7.6 死角をつくらないように留意する。

7.3 囲障・生垣（設置する場合の留意事項）のチェックポイント

- フェンスや塀は、乗越えが容易にできない材質・構造・高さとすること。
(全て合致すること)
 - (1) 材質は防蟻・腐食防止加工をしてある
 - (2) 登りにくい構造になっています。
 - (3) 高さは1.8m以上確保しています。
- 設置する位置は、掃き出し窓など侵入の恐れのある出入口や窓に直接近づけないよう有効に設置する。(全て合致すること)
 - (1) 敷地境界線上には囲障が設置しています。
 - (2) 足掛かりになる部分はない。

□掃出し窓など侵入の恐れのある出入口や窓に対して、道路や路地からの視線を遮らないよう設置すること。

- (1) 侵入の恐れのある出入口や窓は、囲障越しに容易に見ることができます。

□駐車を附置する場合は、駐車スペースの外部或いは住宅側どちらかに囲障を設けること。

- (1) 駐車を附置する場合は、道路と駐車場の境界線、または、駐車場とそれ以外の敷地との境界に設置されています。

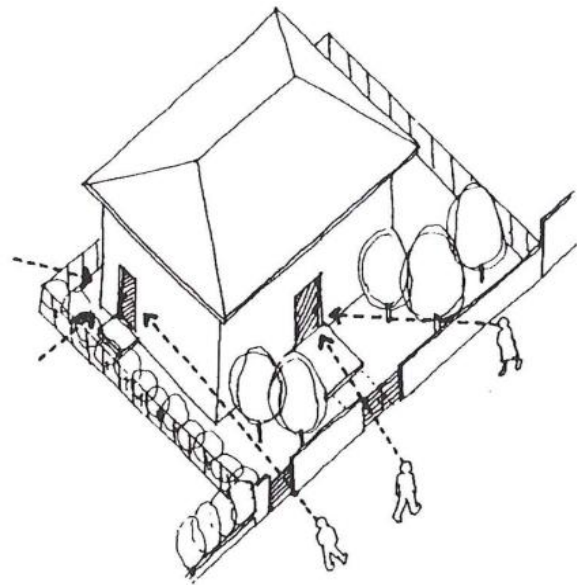


図 7.7 玄関口や勝手口は道路から見えやすい位置に設置する。

□植栽は周囲からの見通しを妨げないよう樹種の選定や植栽の位置を配慮する。

(全て合致すること)

- (1) 生垣の高さは 1.5m 未満になっています。
(2) 侵入の恐れのある出入口や窓を遮る植栽はない。

8. 防犯カメラ

近年急速に普及が進んでいる防犯カメラに関しては、犯人の特定や追跡などに利用されることに加え、犯罪抑止にとっても高い効果を発揮します。

8.1 防犯カメラ設置のメリット

(1) 犯罪の抑止効果と証拠能力

のぞきや車・建物などへのいたずら、ストーカー、強引なセールス、窃盗、強盗など、自宅にいる時でもさまざまな事件や犯罪に巻き込まれてしまう危険があります。

一戸建住宅に防犯カメラを設置して「防犯カメラ作動中」と書かれたステッカーでアピールするだけでも住宅の防犯の効果が高くなります。

空き巣犯などは、自分の犯行を見られるのを嫌いますので、防犯カメラがある家とない家であれば、後者の方が捕まるリスクが低いと判断します。

つまり、防犯カメラを設置して、それをきちんとアピールすることで、犯罪者が近寄りにくくなるなど、事件や犯罪の抑止につながります。

また、万一空き巣などに入られた場合でも、犯行の記録を残しておくことができますので、犯人逮捕にも役立てることもできます。

(2) 防犯カメラの設置に適した場所

ア 玄関

戸建て住宅に防犯カメラを設置する際に、最も適した場所といえるのは、やはり人の出入りの多い玄関です。

ご近所トラブル、悪徳セールスの訪問といった場合、玄関がその舞台になることがほとんどです。泥棒や空き巣の不正開錠行為も監視できます。また、玄関の目立つ場所に防犯カメラが設置してあれば、それだけでも犯罪の抑止力になるでしょう。

玄関に防犯カメラを設置する際は、カメラが濡れてしまう場所なのか、そうでないかを確認することが大切です。

濡れてしまうような場所に設置せざるを得ない場合は、防水タイプのものがおすすめです。



写真 8.1 玄関前の設置場所

イ 門扉

玄関から門扉の距離がある場合、門扉に防犯カメラを設置すること。

門扉に設置している場合、セールスや不審者を玄関に入れずにすむ。また、自宅周辺の映像が見られるので、自宅周辺をうろついている不審者を確認することも可能です。ストーカー、強盗、空き巣対策にはもってこいです。



写真 8.2 門扉の設置場所

ウ 駐車場及び駐輪場

駐車場は、家の中からも、外からも、目につきにくい場所にある場合が多い。そのため、車上荒らしなどの被害に遭うケースでも、駐車場に防犯カメラがあることで、不審者を近づかずにすみます。



写真 8.3 駐車場の設置場所

エ 勝手口

勝手口は通常、家の奥まった場所にあり、外から入りにくいと思われています。しかし、その反面、死角ともいえる。そのため、そこを狙って入る空き巣や泥棒もいるので、防犯カメラの設置が有効な場所であります。



写真 8.4 勝手口の設置場所

8.2 防犯カメラの設置の際の留意点

(1) 用途、設置場所の環境を考慮して選択

防犯カメラには、大きく分けて屋外用と屋内用があります。さらに、外でも屋根がある場所なのか、そうでないのかによって防水加工が必要かどうかなど、あるべき機能やスペックが異なります。そのため、どのような用途で設置するか、どこに設置するかをきちんと把握した上で、もっとも最適な防犯カメラを選択し、設置することが大切です。

(2) 死角を増やさないよう、設置位置や角度を確認

防犯カメラの撮影範囲はそれぞれ異なる。設置位置、角度によってはカメラがカバーできない死角が増えます。そうした事態を防ぐために、設置位置や角度は十分に確認し、死角を増やさないようにすることが大切である。

なお、画角における詳細については、日本防犯設備協会の防犯カメラシステムガイドに掲載されていますので確認お願い致します。

防犯カメラシステムガイド記載のURL：

https://www.ssa-j.or.jp/pubdoc/bohan_guidebook.html

(3) 屋外用はその場所の明るさに合わせた機能を選択

屋外の場合、夜は完全に暗闇になってしまう場所もあれば、比較的明るい場所がある。夜であっても明るい場所であれば、特に夜間撮影機能のないものでも十分その役目を果たすことが可能です。

しかし、そうでない場合は、ある程度の明るさが必要なので照明の設置などを行うこととします。

赤外線 LED が付いたものなら、夜間でもハッキリと不審者を撮影する事ができるので検挙に結び付く可能性が高くなります。

(4) 防犯カメラ設置のステッカーやシールを貼っておく

防犯カメラがあるということ自体が、犯罪や事件の抑止力となる。せっかくですから、防犯カメラがあることをアピールすることが効果的です。

表札の周辺や門扉など、目立つ場所に防犯カメラ設置のステッカーやシールを貼ることも効果的です。

(5) 撮影した映像、得た情報の取扱いに十分注意する

撮影した映像、それによって得た個人の情報を外部に許可なく公開したり、口外したりすると、大きなトラブルに発展してしまうこともあるので、その取扱いには十分注意することが大切です。

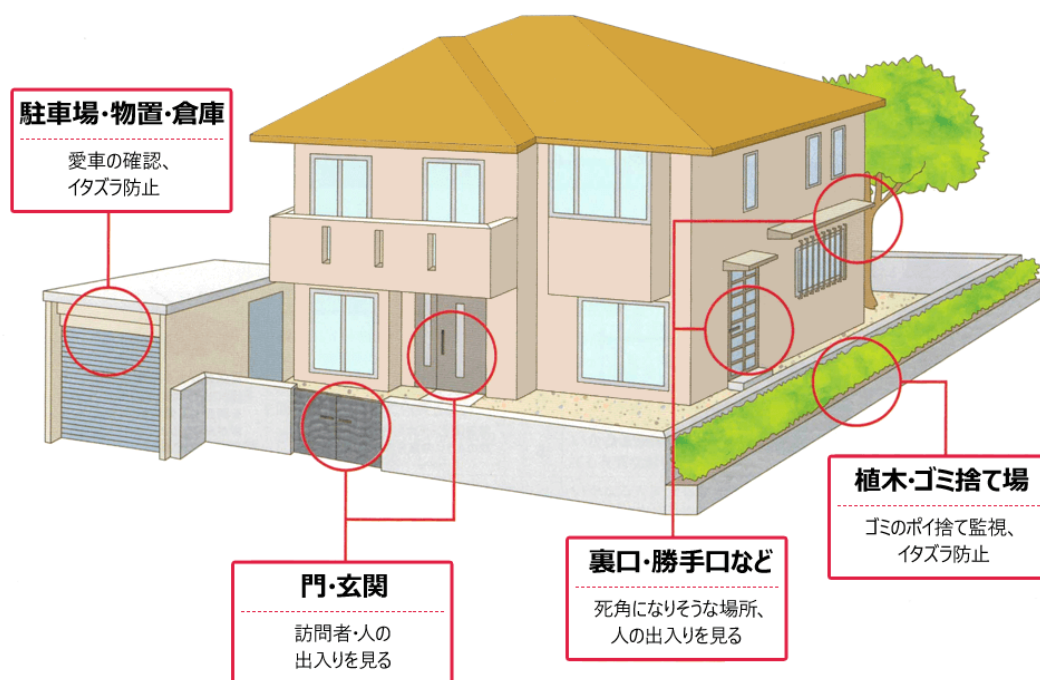


図 7.1 防犯カメラの設置場所のイメージ

8.3 防犯カメラのチェックポイント

□用途、設置場所の環境を考慮しているか。

死角（玄関、門扉、勝手口、駐車場など）になる場所に正しく設置しているか。
なお、死角になる部分に対して全て設置するのが困難な場合は、侵入が想定される箇所への設置を最優先します。

せっかく防犯カメラを設置しても、死角（玄関、門扉、勝手口、駐車場など）ができるとその部分を狙われてしまうため、防犯効果は激減する。防犯カメラの設置位置や向きなどをしっかりと検討し、出入口や駐車場を映すことが大切である。敷地が広い場合は、複数のカメラを設置することも検討します。

また、泥棒や空き巣は、玄関だけではなく窓からも侵入します。警察庁の発表によると、令和4年に発生した一戸住宅侵入被害のうち、玄関などの出入口から侵入された割合は36.7.4%、窓から侵入された割合は53.5.6%でした。1]

とくに住宅の裏側にある窓は近隣住民の目も届きにくいいため、狙われやすい。泥棒や空き巣の侵入を防ぐためには、玄関だけでなく窓が映るように防犯カメラを設置することが重要です。

□個人情報を配慮した角度・画角を設定しているか。

*メガピクセル以上の防犯カメラを使用する場合、画面全体に人物像が入り、さらに人物の人相を識別できる「画角A」[注2]以上に設定してあるか。（推奨）

*画像サイズとしてフルHD（200万画素）以上を使っているか。（推奨）

防犯カメラを設置するにあたっては、画角（防犯カメラが映す範囲か）[注2]に注意しなければいけない。防犯カメラで撮影する目的は、あくまでも自宅の防犯のためであり、他人や他人の敷地などを監視するためではないからである。なにも考えずに設置し、「実は近隣住宅の家の中まで映っていた」ということになってしまうと、法律に抵触する可能性もあるため、個人情報に配慮した画角を設定すること。

注2：画角の詳細に関しては、公益社団法人日本防犯設備協会の「防犯カメラシステムガイド Ver 3」に掲載されています。

□防犯カメラの存在をアピールしているか。

この防犯カメラが何の目的で稼働しているかを明確にした看板などで正しく設置しているか。（必須）

単に防犯カメラを設置するだけでなく、その存在をアピールすることで、さらに防犯効果がアップする。たとえば、「防犯カメラ設置中」「24 時間監視中」などと書かれたステッカーを目立つ部分に貼っておけば、泥棒や空き巣に対する威嚇となり、犯罪抑止につながる可能性が高くなります。

また、このようなステッカーを提示しないと個人情報保護法に違反すると住民とのトラブルになる可能性があるので注意が必要です。

□屋外では、その場所の明るさを確保できる機能を持っているか。

設置している防犯カメラが夜でも正しく撮影できるか。

＊防犯カメラのそばにセンサー付ライト（水平面照度〔注 3〕：20ルクス以上）など設置により顔が認識することができるか。

＊センサー付ライトが設置できない場合は、被写体照度0.5ルクス以上を確保できる防犯カメラ性能の物を使用します。

夜は完全に暗闇になってしまう場所もあれば、比較的明るい場所もあります。

夜であっても明るい場所であれば、特に夜間撮影機能のない物でも十分にその役目を果たすことが出来る可能性があります。

しかし、そうでない場合は、デイナイト機能や赤外線機能のあるものが有効である。

LEDが付いたものから、夜間に不審者を威嚇できるので、人通りが少ない場所で効果を発揮します。

注 3：床面で測定した照度のこと。

9 テレビドアホン

9.1 テレビドアホンの普及について

侵入窃盗の犯罪のほか特殊詐欺などの犯罪が増加傾向にある中、住宅におけるテレビドアホンの普及は、下記の通り60%を超えており、音声機能のドアホンを含めると90%となる。ドアホンの重要性は、市民へ浸透してきており、さらにテレビドアホンの重要性を認識している市民も多い事が分かります。（図1参照）

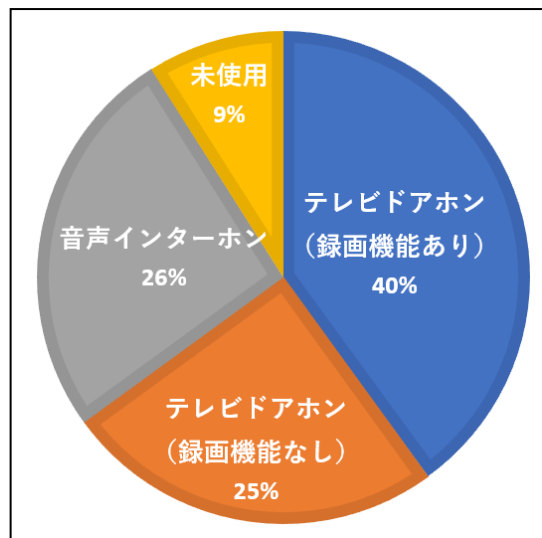


図 9.1 テレビドアホンの設置状況

出典：インターホン工業会（2023 年のアンケートに基づく結果）

9.2 テレビドアホンの抑止力としての重要性

（1）防犯機器としての重要性

テレビドアホンは、玄関のチャイムの部分に小型カメラが付いており、室内にあるモニターで来訪者を確認できるインターホンです。

来訪者と話すことなく顔を確認することで誰かが分かるため、セキュリティ上、重要な防犯機器となっています。侵入窃盗以外に押し売り、迷惑なセールス、ストーカーなどからも画像確認により守ることができます。

（2）インターホンを鳴らして留守を確認し、空き巣に入る犯罪者もいます。

犯罪者は、セキュリティ対策をしていない侵入しやすい住宅を狙います。

特に住人が不在かどうか判断するのにインターホンで確認するケースが以前は多かったのですが、最近では逆にカメラ付きの玄関子機が付いていると避けると言われています。

9.3 テレビドアホンの選択ポイント

テレビドアホンの一番のメリットは、来訪者の顔を確認することができることです。もし仮に、来訪者が怪しければ居留守を使うこともでき、危険回避にもつながる。特に女性が一人暮らしをする場合は、下記条件に対応したテレビドアホンが必要です。

(1) 非常ボタン

火事や侵入窃盗などの非常事態が起きた時に非常ボタンを押すことで、非常警報音により周囲に知らせることができるため、防災上の抑止力として有効である。また、健康上の非常事態にも周囲に知らせる上で有効であります。

(2) 広角カメラ

広角カメラ対応のものは、画角が広く設定することができるため防犯上有効である。不審者は、チャイムを鳴らした後、映らないように隠れて、ドアを開けさせる事例もあります。カメラでどの範囲まで映るかは重要であります。

(3) 自動録画

呼びボタンを押した際の画像を記録できる機能がついているものが良い。在宅時に対応したときだけでなく来訪者も確認できることが重要です。

(4) LEDライト

照明付きのものが良い。特に夜間など周囲が暗い時に、来訪者を十分に撮影できない場合がある。LEDライトにより、しっかり撮影することができます。

9.4 テレビドアホンがない場合の対処法

(1) 基本的にドアはすぐには開けない

特に一人暮らしの場合だと、来訪者とのトラブルは避ける必要があります。面倒でも以下の順番で対応することで危険などを防止することに繋がります。

ア ドアスコープから確認して対応する必要があるか判断します。

イ ドア越し又はインターホン越しに用件を確認し、対応が必要か判断します。

ウ 対応が必要な場合でもドアガード又はドアチェーンを付けた状態で対応・確認をします。

エ 荷物などの受け取りの場合ドアガード又はドアチェーンを開けて受け取りがちになりますが、念のため出来る限りドアガード又はドアチェーンを閉めたまま対応します。

(2) 賃貸にテレビドアホンを取り付けられるか

原則、賃貸物件に勝手にテレビドアホンを取り付ける工事はできません。管理会社や大家に相談することで、取り付けしてくれる可能性もあります。近年では、ワイヤレスモニター付きドアホンもあり、配線工事不要で設置できるため既設の住宅でも大掛かりな工事をせずに取付けることができます。

(3) スマートフォンとの連携

最近の製品は、スマートフォンとも連携が可能になっており、外出先から自宅の訪問者を確認でき、不審者と思われれば、警察や、契約している警備会社へ連絡できるので外出先でも侵入窃盗を防ぐ事が可能です。



写真 9.1 製品イメージ



写真 9.2 スマホと連携イメージ

9.5 テレビドアホンのチェックポイント

□テレビドアホンであるか。

- (1) テレビドアホンである。
- (2) 音声のみのインターホンだが、玄関前を撮影している防犯カメラが設置されている。

□室内のモニターにおいて来訪者の顔が識別できる。

- (1) 親機のモニターサイズは3.5インチ以上とする。
- (2) 解像度としてはQVGA「320×240ドット」以上とする。
- (3) 逆光補正機能がついていること。
- (4) 撮影のための照明内蔵タイプとすること。

参考例：画質優先の場合VGA「640×480ドット」で録画を優先する場合はQVGA「320×240ドット」に設定できる。

最近では、フルHD（約200万画素）に対応した製品も出始めている。

参考値として良く画像が見えるための被写体照度5ルクス以上、防犯カメラ前約50cmで設定すること。

□録画ができる。

- (1) 動画が望ましいが、静止画でも可とする。
- (2) 記録媒体（SDメモリーカード等）の容量は2週間以上の画像が記録できること。

□非常ボタンがある。

- (1) 玄関子機も鳴動することが重要。
- (2) 本来は必須であるが、戸建て用インターホンにおいては非常ボタンがない機種が多く存在するため。

執筆者名簿

編集委員会：施工基準委員会

執筆担当委員	氏 名	会員・会社名
委員長	谷川 威人	パナソニック ライフソリューションズ創研（株）
委員	平野 富義	エフビーオートメ（株）
委員	野村 俊一	美和ロック（株）
委員	青山 功	（株）青山設計

事務局 公益社団法人 日本防犯備協会

担当部長 上原 実

<2023年10月30日現在>

防犯診断の手引き

一戸建住宅編

発 行 2023 年 12 月

編 集 公益社団法人 日本防犯設備協会 施工基準委員会

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物です。本書に記載の内容を転載される場合は、事前に(公社)日本防犯設備協会の承諾を得てください。この規格についての意見又は質問は、(公社)日本防犯設備協会 事務局にご連絡ください。

発行所 公益社団法人 日本防犯設備協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-4 (第 2 長谷川ビル)

TEL:03-3431-7301 FAX:03-3431-7304

E-mail:info@ssaj.or.jp